

金城学院特別講演会

原爆投下からノーベル平和賞まで ～そしてこれから



日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)について
広島・長崎の被爆者による唯一の全国組織です。「世界のどこにも二度と被爆者をつくるな」を合言葉に、1956年の結成以来、核兵器廃絶や原爆被害への国の償いを国内外で訴え続けており、2024年にはノーベル平和賞を受賞しました。



日時

2026年8月18日(火) 10時～12時35分

場所

金城学院大学アニー・ランドルフ記念講堂

講師

和田 征子 日本原水爆被害者団体協議会事務局次長

和田 征子 (わだ まさこ)



1943年長崎市生まれ。1歳10か月の時、爆心地から2.9キロの自宅で被爆。

被爆の記憶はないが、母から聞いたことを証言として国内外で伝えている。

2015年6月 日本被団協の事務局次長

2017年11月 パチカンの国際会議でスピーチ。

2024年12月 ニューヨーク 国連本部 TPNW (核兵器禁止条約) 第3回会議で発言

2025年8月 オスロでのノーベル平和賞受賞者が集まる会議で基調講演

神奈川県原爆被災者の会 副会長

横浜市原爆被災者の会 会長

核兵器廃絶日本NGO連絡会 幹事

核兵器をなくす日本キャンペーン 副代表理事

(写真: 日本被団協提供)

主催 学校法人 金城学院